本校教育活動に関する
新聞記事

総合学科　家政科学系列被服系

シルクガールズ　小学校で出前授業

「柔らかい」「きれい」目輝く
絹産業や洋服づくり学ぶ

斎小　鶴中央高シルクガールズと交流

鶴岡市の斎小学校（加藤浩昭校長、児童114人）に13日、鶴岡中央高校の「シルクガールズ」が出前授業に訪れ、6年生たちに鶴岡の絹産業の歴史や洋服が生産・販売されるプロセスなどを解説、交流した。

斎小がキャリア教育の一環で初めて派遣を要請した。鶴岡中央高では2010年度から、市の「鶴岡シルクタウンプロジェクト」の一環で、鶴岡産シルクを使ったドレス製作、絹たんぱくを使った食品開発、幼児向けの教材製作などに取り組んでおり、そうした取り組みの紹介を通じ、郷土や職業への理解を深める狙い。総合学科家政科学系列被服系2年生の女子3人が訪れ、6年生16人に1時間の授業を行った。

生徒たちは、庄内地方には全国で唯一、シルク製品の一貫工程（養蚕、製糸、製織、精練、捺染、縫製）が残っていることや洋服の生産・販売の工程、生徒自身で鶴岡産シルクを使ったドレス製作やファッションショーに取り組んでいることなどを解説。さまざまな染色をしたシルク製品や昨年度のファッションショーで使ったドレスの現物に触れ、「柔らかい」「きれい」などと目を輝かせた。

斎小の三浦萌愛さん(12)は「洋服が好きで、デザインに関心がある。普段着ている洋服が、いろんな専門家たちが工夫し、たくさんの工程を経てできていることを知り、すごいと思った」、鶴岡中央高の井上香朋さん(17)は「自分が小学生の頃は、鶴岡のシルクのことなど知らなかった。こうした機会を通じ、あらためて勉強できて良かった。ファッションショーでは、庄内のシルクのすごさをアピールしたい」と話した。

鶴岡中央高の生徒たちは来年2月、他校を交えて行う成果発表会「シルクのチカラ」でファッションショーを行う予定。担当教諭によると、「出前授業は生徒側の学びにもなるので、今後も要請があれば可能な限り応じたい」という。

鶴岡中央高の生徒たち（左側）の出前授業でシルク製品に触れる斎小の6年生たち

斎小学校で、2年次生が
鶴岡シルクの魅力を伝えました

荘内日報

令和３年１２月１６日

学習センター委員会